

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300560		
法人名	医療法人 木水会		
事業所名	グループホーム八州苑 B館		
所在地	栃木県栃木市藤岡町太田1395		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成22年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑鮮やかな三轟山、広大な湿原で知られる渡良瀬遊水地、周辺には豊かな自然が溢れています。施設内では家庭的な環境のもとで日常生活の介助を通じて、安心と尊厳のある生活を支援しています。また、隣接する老健施設と合同で行う納涼祭・運動会・合同バイキングに、敷地内の畑でのジャガイモ他数種類の野菜の栽培など、四季折々の行事を通し、人と人のふれあいや自然の営みに心はずませる、そんな優しさも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、入居者が住み慣れた地域の中で家庭的な落ち着いた環境の下で主人公として過ごしてもらえるよう、一人ひとりの人間性を重視した支援を行うことを目的とした基本理念と行動指針に基づいて運営されており、管理者及び職員はこれらの理念や指針を共有し、日々の支援に取り組んでいる。ホーム周辺には田畑や雑木林が広がり季節感を感じられる静かな環境に位置しており、隣接している同法人の介護老人保健施設とは看護師等から医療面等での相談の他、災害時の協力体制も構築されている。各職員が管理者へ気軽に相談や提案が行える関係もできており、連携のとれた支援に繋がっている。職員は入居者に常に穏やかに接しながら、本人の意志を尊重した生活支援が行われており、開所時からの職員も多く、入居者との馴染みの関係を大切にしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの基本理念の他に3つの行動指針を定め、ホーム内に掲載すると共に、朝夕の申し送り時や定例のスタッフミーティング時に唱和し、共有化を図っている。	理念の他に行動指針、介護十則等も定めており、入居者一人ひとりの思いやペースを大切にケアに努めている。職員は朝夕の申し送り時やミーティング時に理念等の共有を図っている。毎月2つ程度の重点目標を定め、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地ではないため、近隣の住宅は疎らであるが、地元の小学校の運動会・祭りに参加したり、施設運営の月毎の行事や納涼祭に地域の方に参加してもらったりと地元の人々との交流が保っている。又、2ヶ月に1度、定期的に施設の広報紙を発行している。	ホーム周辺は田畑や雑木林が広がり、地域住民は少ないが、近隣小学校との交流や地域のお祭り等への参加の他、法人で開催する納涼祭には地域住民が多数来所する等、相互交流に取り組んでいる。自治会には法人で加入しており、法人全体で地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に複数の介護事業所があるため、ホーム単独ではなく、それらの事業所と連携してボランティアや実習の受け入れ、講演等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元駐在所・地区の民生委員・地域包括支援センター・市の職員に出席して頂き、情報交換を行ったり助言を受けている。会議の結果はすべてのスタッフに周知し、ホームの定例会等の議題として話し合い、サービス向上に繋げている。	会議ではホームの運営状況の報告や参加者との意見交換等を行い、助言や提案を得ている。会議内容は職員にも周知し、運営に役立っている。民生委員や駐在所員もメンバーに加わり、地域の話や防犯等、議題が広がってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人内の複数の事業所と共に、市の担当者とは密に連携が取れており、お互いの意向はスムーズに伝わっている。又、運営推進会議後は議事録を提出している。	合併に伴い対象地域が大幅に広がったことから、市担当職員とは頻りに情報交換を行い、円滑な支援に向けて取り組んでいる。旧町職員で現支所職員が運営推進会議に参加しており、制度や運営に関する相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束を理解しており、現在身体拘束は行っていない。	ホームでは身体拘束や虐待防止に向けた研修を実施しており、入居者一人ひとりの状態把握に努め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関については外出傾向のある入居者がおり、安全のために止むを得ず施錠はしているが、不穏な場合には職員が付き添って外出する等、閉塞感が無い様に支援している。	入居者が自分の意思で開けられない施錠については入居者に与える影響も考慮しながら、今後も職員全員で鍵をかけずに安全に過ごせる工夫や協議を重ねていくことに期待したい。

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	入浴時に全身の状態観察をし、傷・アザがあった際には原因を確認すると共に、全てのスタッフで情報を共有できるよう伝達帳に様子を記入している。又、高齢者虐待防止法に関する勉強会を持ち、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	“あすてらす”や“成年後見制度”に関する勉強会を持ち、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、担当者が分かりやすく説明をし、納得していただいた上で契約をしている。又、解約をする際は十分な話し合いを持ち、退去先等、その後の受け入れ先が決まってから退去していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情解決制度の案内をホーム内に設置・掲示すると共に、利用者との対話・家族の面会時には職員側から積極的に関わりを持ち、意見を伝えやすい環境を作り、運営に活かしている。又、重要事項説明書内に行政機関の苦情受付窓口を記載している。	家族が面会や利用料の支払い等で来所した際には、職員から積極的に話しかけ、意見や要望を表わし易い雰囲気作りにも努めている。意見や要望等については、職員間で共有すると共に定例会で話し合い、改善や運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月毎の定例会の場において、又それ以外にもスタッフからの問いかけへの対応や、スタッフへの問いかけを随時行っており、それらを運営に反映させている。	職員が普段から気付いた点や意見等はいつでも管理者に伝えられる関係づくりを大切にしており、毎月の定例会やミーティングで話し合ったり、伝達ノートを活用して意見や提案を表わせる機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課題に応じたレポート提出を行う他、各種研修の案内等も告知して自己啓発しやすい環境を作ると共に、スタッフのレベルに応じた業務上の役割を与えるなど、各スタッフのスキルアップを意識した運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を行ってのほか、外部研修にも積極的に参加している。ホームでは、課題を決めてレポートを提出している。		

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には積極的に参加をして交流の機会を持っている。又、同法人内の介護サービス事業所との勉強会や行事等の機会もあり、それらを通じてサービスの質の向上を図っている。他の事業所からの研修も受け付けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身状況の他、生活歴や生活環境等、出来る限りその方の事を聞き取って理解し、その方がホームに入居した場合の生活をイメージしながら相談をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の中で、特に家族関係に重点を置き、施設生活における家族の要望を聞き、今後についての相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを第一に考えるのではなく、まず本人と家族の状態を把握し、何を求めている、何を必要としているかを第一に考えて相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、利用者から裁縫・料理・畑仕事等を教えていただいたり、昔の話を聞かせていただいたりと、分からないところを教わりながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況の報告や状態の説明をこまめに行っており(手紙・電話・面会時)、本人と家族・ホームと家族の関係が細くならないように配慮している。面会の少ない家族に対しては、面会の促しを行い、ホームの運営への理解と協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の希望がある時は積極的に支援をしている。又、面会者が来られた際にはお茶やお菓子を差し入れ、くつろぎやすく来訪しやすい環境作りに配慮している。	本人の希望を確認し、家族の協力も得ながらお墓参りや同級生との食事等に出掛けている。知人等の来客時には、各居室に案内し、茶菓を提供する等の心地よく過ごせるよう配慮に努めており、何度も足を運んでくれる方もいる。	

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	スタッフは利用者一人一人に声掛けをして おり、利用者同士の関係を把握すると共に、 トラブルが起きた際には双方の話をそれぞ れ納得がいくまで聞き、問題解決につなげる 努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受け付けており、希望される 方には法人の広報新聞“やすらぎ”の送付 や納涼祭の案内の通知を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	センター方式を利用して、本人の希望、趣 味や嗜好の把握に努め、それらを踏まえたう えで仕事、役割、レクリエーション、行事等を 検討している。	センター方式のアセスメントシートや 本人への確認により思いや意向の 把握をしている。意思表示が困難な 場合には家族からの情報や本人の 表情や仕草等から気づいた点を職 員で共有し、思いや意向の把握に努 めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居相談時のヒヤリングの他、入居後の何 気ない会話にも注意を払い、センター方式を 活用してこれまでの暮らしの把握に努めてい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活を介護記録に正確に記録し、 又、定例のスタッフミーティング等を通じて全 スタッフが個別の情報を共有し、状況を把握 してケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	本人と家族のヒヤリングを基に、医療関係 者・介護スタッフの意見を加味してケアプラン を作成している。	本人や家族の要望を基に、職員の気づ き等も参考に計画作成担当者が介護計 画を作成している。3ヶ月毎にモニタリ ングを行い、ホームにおける達成状況の評 価や本人及び家族の満足度等を参考に 介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録表を整備し、事柄だけではなく、 会話の内容や表情も記録している。それら のファイルはスタッフがいつでも目を通せる 場所に保管しており、情報を共有しながら介 護に活かしている。		

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム単体のみならず、法人内の他事業所と連携し、本人と家族の希望や状況に応じた対応、支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の利用や行事への参加、ボランティアや実習生の受け入れ等、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談の上でかかりつけ医を確保しており、受診時には本人の状態を的確に伝えられるよう、状況表や各種記録物を持参して、スムーズな診察が受けられるよう支援している。	入居時に本人や家族とかかりつけ医の相談を行い、殆どが協力医療機関にかかりつけ医を変更している。協力医への受診は職員が付添い、診察結果を家族に報告している。協力医療機関に診療科目がない眼科や皮膚科等には家族の付添いにより、それぞれのかかりつけ医で受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に看護師が複数名おり、当ホームを訪問し、利用者の日常の健康管理の他、スタッフの相談等も請け負っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と医療関係者で話し合ってもらうと共に、計画作成担当者が家族(必要に応じて医療関係者)と連絡を密に取り、早期退院に向けた対応をその都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、当法人の方針について家族への説明を行い理解をいただき、重度化や終末期に備え準備している。又、早期段階から家族・主治医と相談する機会を持ち、それぞれと密な情報交換を行い入院や他サービスの利用も含め、本人と家族の意向を尊重し納得する方針に沿った対応を心がけている。	重要事項説明書に重度化や看取りに関する指針を記載し、同意書も作成している。ホームでは家族や本人の意向を尊重し、できる限り支援を続けたいと考えている。職員へは指針による研修を行い、方針の共有を図っており、隣接する同法人の老健施設の看護師との連携にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会により事故発生時の初期対応等の習得をしている。又、関係医療機関や看護師、スタッフとの連絡網を整備し、スムーズな対応が取れるように努めている。緊急車両の要請についても、地元の消防署との通報訓練により備えている。		

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。消防署とも連携を取り、通報訓練を行っている。	年2回、法人全体での消防訓練の他、ホーム単独での訓練も実施しており、消防署との連携や隣接する同法人事業所との協力体制も構築されている。今年度中にスプリンクラーの設置を予定しており、入居者の安全・安心に取り組んでいる。	災害発生時には隣接する同法人事業所との連携体制は構築されているが、職員が少なくなる夜間時には職員の不安も多い事から、今後、消防団や近隣住民との災害時における協力体制づくりに向けた取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフはミーティングや毎日の介護を通して利用者の状態(精神的・身体的なもの)を把握しており、守秘義務を理解のうえ、それぞれの利用者に応じた対応をしている。	職員は、常に「自分だったらどうか」と入居者の気持ちを考えながら行動するとともに、入居者それぞれの状態を把握した上で、プライバシーや誇りに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定をさせていただけるよう、「お伺い」をたててから行動している。又、「促し」や「励まし」によって自発的に行動していただけるよう工夫し、声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活が保てるよう、基本的な時間割はあるが、本人のペースを尊重し「お伺い」をたててから行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んで着ていただき、スタッフは季節や気温、汚れ等に気を遣いサポートをしている。又、理美容院については、本人の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や、調理、準備、片付け等は出来る範囲で手伝っていただいている。又、昼食はスタッフも一緒に利用者とは話を楽しみながら食べている。毎日1人(食)は職員も同じ食事を摂っているがその他の職員も摂れるよう行事を工夫している。	入居者は職員と一緒に出来る範囲で食事の準備や盛り付け、後片付け等を行っている。昼食は職員1人が入居者と同じもの食べ、他職員は持参の弁当等を食べている。行事の際には全職員と一緒に同じ物を食べられる様に工夫している。	食材費の負担や入居者の食事の介助等の兼ね合いもあるかと思われるが、グループホームの特性を踏まえ、職員が入居者と一緒に同じ食事を摂ることが出来るよう検討を重ねていくことに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考えた献立を管理栄養士が作成し、毎食後食事摂取量をチェック、記録し状態の把握と確認をしている。		

グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操を行い、食後はスタッフが声掛けをして個々に必要な歯磨きの支援をしている。又、入れ歯は夜間1日おきにスタッフが消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日個別の排泄記録をつけて、排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導と使用物品の工夫により対応している。	個別の排泄パターンを把握するとともに、食事やお茶の前に誘導するなどの対応により、日中はトイレでの排泄を基本にしている。排泄の失敗も減ってきているが、失禁時は周囲に気づかれぬよう、さりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を実施し、こまめな水分摂取にも配慮している。又、食事以外でも希望者には牛乳やヨーグルト、ヤクルト等を出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の確認を毎日行い、時間帯や長さも出来る限り本人の希望に合わせている。	希望があれば毎日入浴が出来るようになっているが、殆どの入居者は1日おきに入浴している。入浴時間や順番等、本人の希望に出来る限り沿うよう配慮している。1対1の支援を基本としているが、支援が困難な場合には浴室にプザーがあり、応援を呼ぶことが出来るようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息している方がいる時や夜間は、大きな物音に注意し、寝付けない方がいる時は、ゆっくり話し相手になり、安心して再入眠出来るよう一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を把握できるよう、薬の提供書をファイルしており、いつでも処方された薬に関する情報が確認できる。又、薬の変更があった際は、伝達帳にも記入し、出勤したスタッフにすぐに分かるようにしている。協力病院の薬剤師とは24時間連絡を取ることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理等できる事・出来そうな事は手伝っていただけるよう促している。又、馴染み深い仕事は教えていただきながら、スタッフも一緒に作業する事を心がけている。		



グループホーム八州苑B館(B館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外で体操をしたり、散歩に行ったり、又、家庭菜園の作物の育ち具合を確認しに行ったり、外に出る機会を多く設けている。買い物に行く際も、希望を募り一緒に出掛けている。又、本人の希望に応じて、家族に外出の協力を仰いでいる。	天気の良い日には近隣への散歩や家庭菜園や花壇の手入れをはじめ、ドライブや外食にも積極的に出掛けている。ひまわり等の季節の花を見に行くなど、季節を感じられるような外出の支援を家族の協力も得ながら取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、事務所で管理をしている方もいる。その際は、出納帳を作りレシートは保存し、家族の面会時には確認してもらっている。又、買い物の際には出来る限り本人に支払っていただくようにサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との通話の際にはコードレスフォンを利用して居室内で電話していただいたり、手紙を送る際には施設からの通知の封書に同封したりと、大切な方との連絡を取る際のサポートをしている。又、本人の希望があれば、携帯電話の持ち込みも可能な場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使う物と同じ物を使用したり、テレビの音や照明、日差しの調整等は利用者の確認を取りながら行っている。室内の装飾は季節毎に変え、利用者が作成した作品等も飾り、居心地の良い空間作りに配慮している。	共用空間には家庭的な家具類が置かれ、入居者や職員の写真等が飾られている。夏場はよしずで日差しの調整をしており、空調や温度管理は適切であり、テレビ等の音の大きさにも配慮されている。入居者はリビングのソファや小上がりの畳コーナー等で思い思いに寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の椅子やテレビ周りのソファ、玄関周りの椅子等、自由に過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器等も含めご自分で使用される物は使い慣れた馴染みの物を持ち込み、利用していただいている。居室内の家具や装飾等も同様。	家庭とのギャップを感じさせないよう、馴染みのものや本人の好きな物をもってきってもらうよう働きかけており、使い慣れたテーブルや筆筒、テレビ等の家具・家電類、写真や本等も持込まれており、入居者それぞれが快適で個性的な部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内への手すりの設置や物干し台の高さの調節、椅子利用時の踏み台の作成等その人の身体に合った工夫をしている。又、それぞれの人が分かりやすいよう、表示、掲示物の大きさや高さ、飾り等の調節を行い利用しやすい環境作りに努めている。		